

## Horizontal NFVの実践と課題

Isamu Monji (文字 勇) Business Solutions Architect, Cisco Systems October 15, 2020

#### 自己紹介

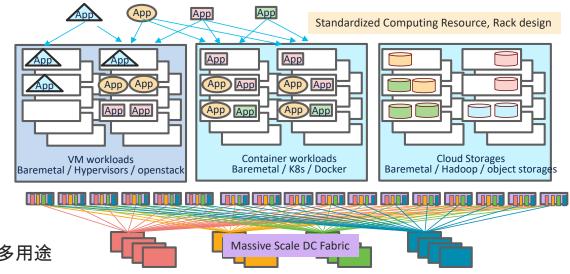
- ・文字 勇 (もんじ いさむ)
- ・ 某 通信事業者にて数年 Network Engineer職
  - · 流通業界のNetwork、新規事業の立ち上げのようなものも
- ・ 2001年~ Cisco Systems にて Systems Engineer, SE Manager, Solution Architect
  - ・主に通信事業者様を担当するSales部門にて
  - Broadband Access、Telecom Infrastructure、Mobile Core、Small Cell、Stadium Entertainment、他
- ・現在アーキテクト職として:通信事業者様の新しいインフラ構築に携わる
  - 4G/5G Mobile Core, (v)RAN, Transport, DC, NFV, Automation, ....

#### Agenda

- ・ Horizontal NFVの事例
- ・大規模なNFVでの共通NFV基盤:メリット
- ・直面した課題
- ・まとめ:今後の拡大へ向けて

#### Public Cloudは広く一般に普及

- ・ VM, Containerなど必要な Resourceを自由に確保
- App/Workloadを載せるだけ
- Storageも必要な量だけ、 随時Scale Up
- ユーザからはインフラが どうなっているか見えない (見る必要が無い、意識させない)
- ・ 開発環境、商用サービス、Hybrid、多用途

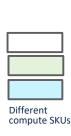


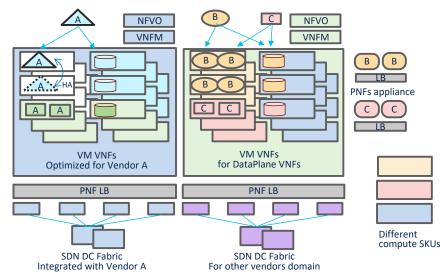


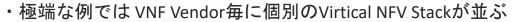
通信事業者のインフラを支えるNetwork Functionには・・・・

#### 通信業界でもNFVは数年来導入が拡大

- ・ "Virtical NFV"が少なくない
- ・ VNF vendorとしての性能保証はvalidate済の基盤にて (HW, HyperVisor, Storage, etc)
- 多数のVMから成るVNF、Networking Design、 作り込んだ冗長化・自動化・運用、 大規模導入には各社のVNFMにて
- ・ System Integrationとあわせて Compute, Storage, DC Fabricも提供





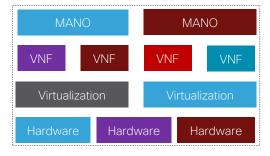




- ・Computeの例を見てもSKUが多種に分かれ、調達・構築・Lifecycle管理も個別に行われる
- ・部分的にNFVの導入は進むが、完全仮想化には進みにくい(全て仮想化する方針でも無い)

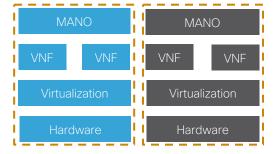
#### "Horizontal NFV" は実現したい理想のモデル

1 Do it Yourself (DIY)



- 標準化により各種Componentの 疎結合は実現できる
- オープンソース、Vendor特性・固有、 その他の組み合わせによる フルカスタム・モデル
- ・新しい技術、Solutionを柔軟に 取り込めるアーキテクチャ
- 複雑化は否めず、大規模展開や 運用には課題

2 Vertical Solution Stack



- ・主要なVNFコンポーネントに関連し HWとSWの性能保証の観点も含む
- 仮想化とCOTS HWなどメリットは 享受しつつ、アプライアンスモデルに も近い
- 各VNF機能、ドメインごとにStackが 作られることも少なくない

Common Horizontal Platform

Common MANO

VNF VNF VNF VNF

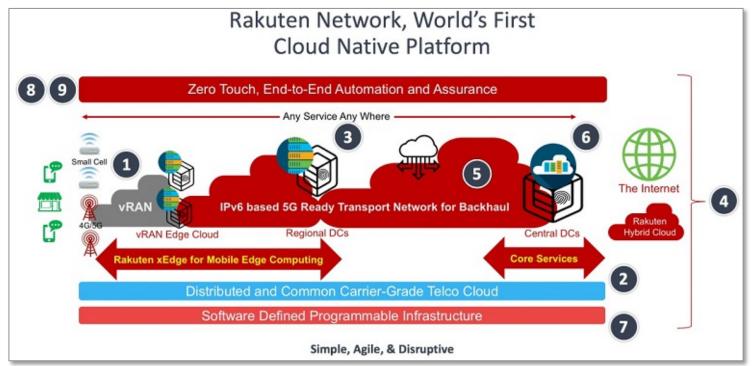
Common VIM / Virtualization

Hardware Hardware

- NFV基盤 HW, 仮想化基盤、 MANOレイヤを共通化
- VNFは各Vendor, 各機能を組み 合わせ、共通基盤上で稼働
- 適用範囲の水平拡大に期待
- VNF Vendorは性能評価や動作 保証が難しい

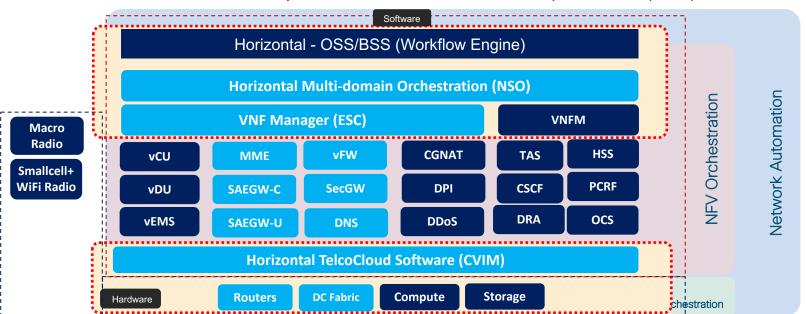
#### Horizontal NFVの事例: 楽天モバイル(株)様

#### 完全仮想化 モバイルインフラの実現は"Horizontal NFV"が非常に重要



#### Horizontal NFVの事例: アーキテクチャと主なVNF

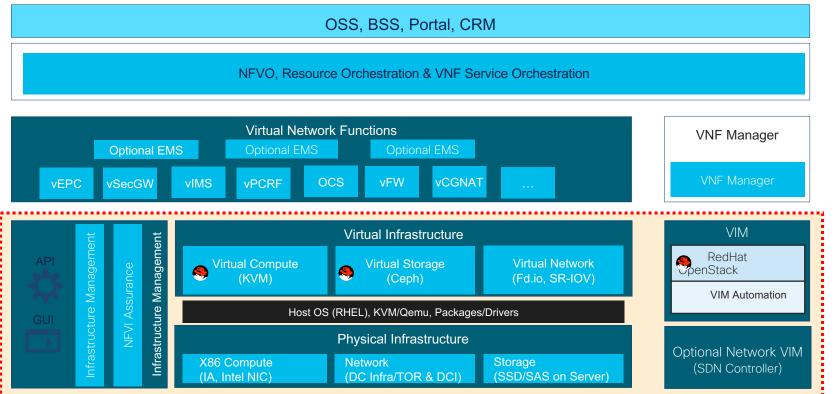
共通 NFVO Automation / Orchestration: Common OSS, Cisco NSO, ESC, other VNFM



共通 NFVI 基盤: Cisco VIM + Cisco ACI + x86 Servers

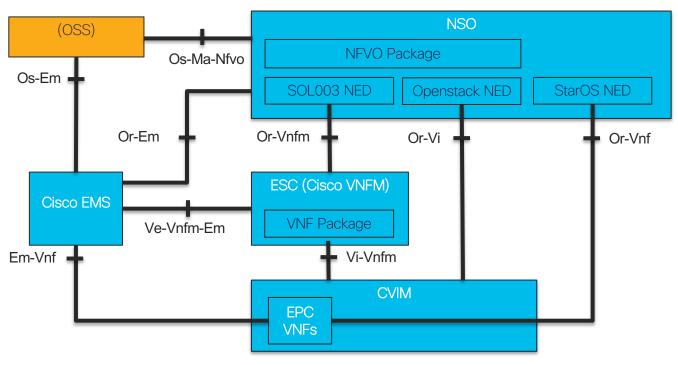


#### Cisco VIM: NFV向け Openstack環境の自動化









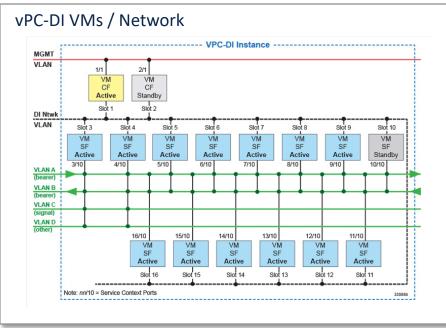
- 常にOSSからVNF立ち上げ
- ・ NFVO (NSO)からCompute Resource Assign、VNFM (ESC)からVM立ち上げ、 NSOからDay1 Config投入
- 異なるVNF vendorにも NFVO, VNFMを共通化
- 異なるVendorのVNFMも 許容する:複雑な構成の VNF,開発期間の観点など

#### 共通NFV 基盤: 成功のポイント(設計面)

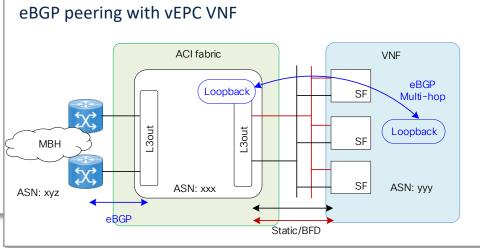
- ・VNF Workloadによらない Compute Nodeの標準化: 少ないHW SKU
  - ・ セッション・コントロール系 (CPU intensive), ユーザデータ系 (Data Plane Performance)、などコアDCのVNFは基本的に共通SKU : SR-IOV NIC, CPU, Memory, Local Storage,
- ・PODデザイン、Networkingデザインの(できる限り)モデル化、シンプル化
  - Controller, Compute, Storage のラックデザイン標準化、ToR/Spine 物理接続も
  - Logical NW: Data Plane (Internal, External), L2 segment, L3 gateway, VRF Segregation

・デザインの標準化はAutomationを救う

#### Cisco vEPC の場合: Control Planeの例

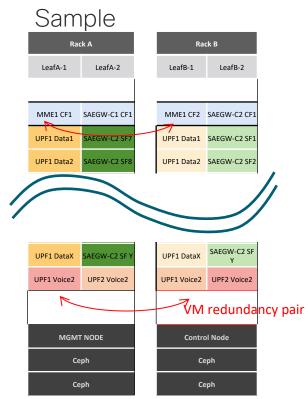


- vMME vPC-DI VNF instance
- 2 x CF, N x SF
- L3 Gateway, BGP advertise



#### DynamicなCompute ResourceのAllocationは理想、But...

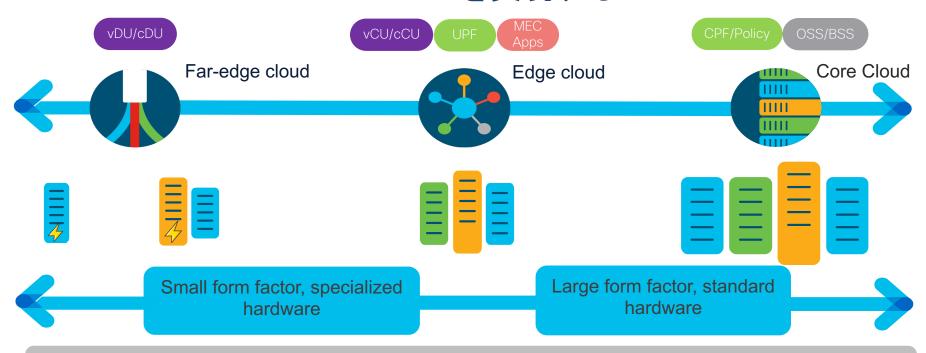
- ・VNFに要求される性能:例:UPF N Gbps (UL + DL)
  - VM placement, CPU pinning
- ・ VNF あるいは VMの単位でのRedundancy
  - Anti-affinity も
  - ・物理Rackを跨いだ耐障害性
- ・初期構築時のPOD Sizinig
  - ・必要セッション数、Traffic Capacity
  - · DC内·DC間冗長化



#### Horizontal NFV により得るメリット

- ・共通基盤の上に新しいVNFを載せられる柔軟性
  - ・デザインの標準化、Networkingのモデル化、通信Flow、
  - ・新サービスを迅速に提供できる俊敏性
- ・機能ドメインをまたがる、共通のリソース管理、HW保守・増強
  - ・ 複数のVertical Stack -> Horizontal Stackの運用性
  - ・Telco NFVのクラウド運用化に近づく
- ・物理的なロケーションの拡大・水平展開
  - Distributed DC, Edge Computing
  - ・規模の拡大

#### Horizontal NFVはDistributed DCを実現する



- Abstracted infrastructure layer
- Automated lifecycle management
- Centralized, end-to-end monitoring

- End-to-end service orchestration
- Network functions deployed anywhere

#### Horizontal NFV 直面した課題

- ・各VNF vendor毎に異なる要件:どのように吸収するか
  - · VM Flavor, Dimensioning
  - Performance ∠ CPU pinning / NUMA aware、H/T
  - L2/L3 Networking
  - VM level Redundancy, VNF redundancy design
- ・リソースは有限
  - 理想は Flavorに基づいて VNFを Deploy していくこと
  - Under Dimensioning / Over Dimensioning
- ・共通基盤でのQualification, Validation
  - ・ 各VNF vendorのUnit Test onto NFV基盤
  - ・総合試験環境 : Multivendor Integration

### リソースと初期 Dimensioning

- ・DCサイズ、POD サイズ、物理リソース
- Target Session、Traffic Capacity

- VM Flavor:明確
  - vCPU, vMEM, IOPS, Disk, H/T ....
- ・必要なトータルリソース: Dimensioning
  - 各VNF vendorごと
  - · 共通POD or 分離



POD A	Compute	vCPU	vMem	vDisk	IOPS
TOTAL:					

#### まとめ: 今後の拡大へ向けて

- ・Horizontal NFV 共通基盤は、VNFデザインの標準化・シンプル化は大事
  - 来るコンテナ環境にも重要
  - Microservice, Service Mesh と、Data Plane性能 (SR-IOV ?)
  - ・ Networking モデル化
  - ・SKUの最小化は大きな価値あり
- 通信インフラに求められる伝送性能、スケールと信頼性を実現しつつ、仮想化による柔軟性・俊敏性は両立できる
- ・アーキテクチャの標準化・共通基盤化により、どんなサービスをどこへでも 展開できる、ようになった!?

# cisco